

## 海外の畜産物の需給動向

# 牛肉

### 米国

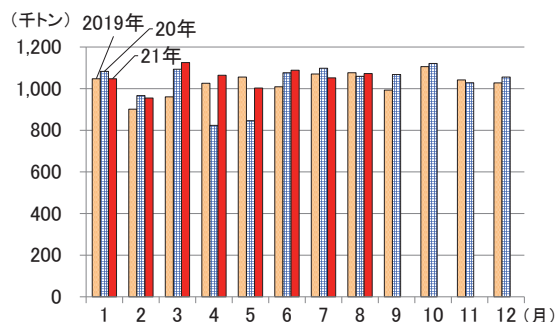
## 7月の牛肉輸出量、中国向けが前年同月比8.2倍に増加

### 牛枝肉重量、4カ月連続で前年同月を下回る

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）が毎月更新する「Livestock & Meat Domestic Data」によると、2021年8月の牛肉生産量は107万2000トン（前年同月比1.3%増）と前年同月をわずかに上回った（図1）。同月の1頭当たり枝肉重量は後述の通り前年同月を下回ったものの、と畜場の稼働日数が前年同月より1日多く、と畜頭数が前年同月比2.9%増となったことが増加の要因として挙げられる。

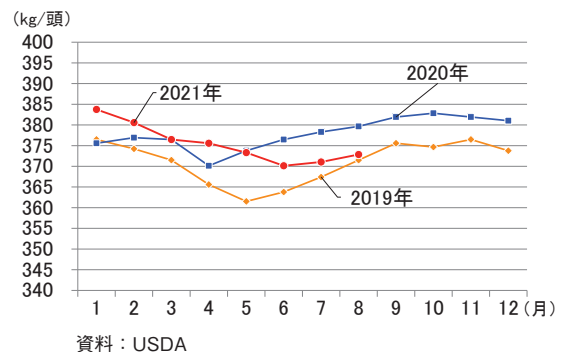
8月の1頭当たり枝肉重量は、373キログラム（同1.8%減）と4カ月連続で前年同月を下回った（図2）。これは、1頭当たり枝肉重量は季節的に増加傾向にあるものの、

図1 牛肉生産量の推移



資料：USDA 「Livestock & Meat Domestic Data」  
注：枝肉重量ベース。

図2 平均牛枝肉重量の推移



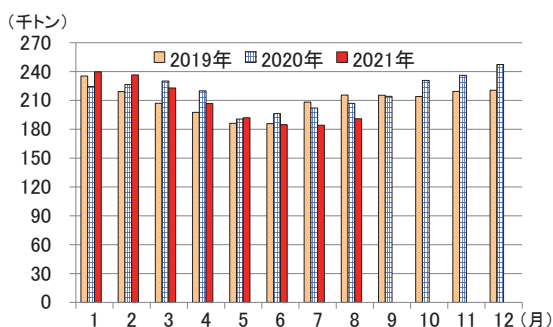
資料：USDA

飼料コスト高により早期出荷が比較的積極的に行われていること、また昨年は食肉処理場の稼働率低下でフィードロットの滞留期間が長期化して増加していたためとされている。しかしながら、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大前の19年の水準をわずかに上回っている。

### 好調な需要で牛肉在庫は低水準

USDAが9月22日に発表した「Cold Storage」によると、国内の夕食需要の回復に加え、2020年3月以降、中国で発動された米国産牛肉などに対する追加関税分の免税措置などによって中国向けの輸出が増加し続けていることなどから、8月の牛肉在庫は19万1000トン（前年同月比7.7%減）と3カ月連続で前年同月を下回った（図3）。牛肉在庫は例年、夏場の需要期が過ぎると増加

図3 牛肉の月末在庫の推移



資料：USDA

傾向で推移するが、21年は牛肉価格の記録的な高値が示す通り好調な需要から、例年ほど在庫の積み増しが進んでいない状況となっ

ている。

### 7月の牛肉輸出量、中国向けの増加で前年同月比18.1%増

USDA/ERSの「Livestock and Meat International Trade Data」によると、2021年7月の牛肉輸出量は13万4900トン（前年同月比18.1%増）と引き続き記録的な高水準で推移しており、1～7月の累計では89万1900トン（前年同期比20.8%増）となった（表1、図4）。

表1 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：千トン)

	2020年 7月	2021年 7月	前年同月比 (増減率)	2021年 (1～7月)	前年同期比 (増減率)	シェア
日本	34.4	33.1	▲3.7%	219.6	▲4.5%	24.6%
韓国	30.1	29.9	▲0.9%	212.1	23.2%	23.8%
中国	2.8	23.1	724.3% (約8.2倍)	128.3	991.0% (約10.9倍)	14.4%
メキシコ	8.6	11.4	32.7%	83.1	17.4%	9.3%
カナダ	11.6	10.4	▲10.9%	72.0	▲7.4%	8.1%
台湾	8.4	8.2	▲2.3%	49.7	0.7%	5.6%
香港	8.0	3.9	▲51.3%	33.9	▲31.7%	3.8%
その他	10.2	14.8	45.7%	93.3	21.1%	10.5%
合計	114.2	134.9	18.1%	891.9	20.8%	100.0%

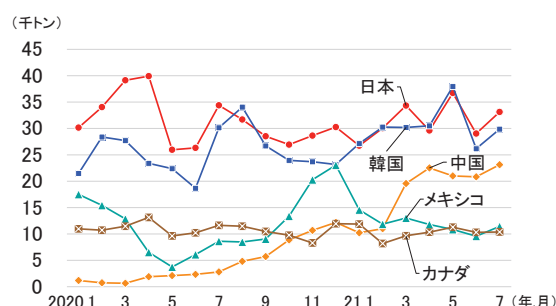
資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」  
注：枝肉重量ベース。

7月の牛肉輸出量を主要輸出先別に見ると、中国、メキシコを除く主要輸出先向けは前年同月を下回った。

最大輸出先である日本向けは、飲食店の時短営業や酒類の提供自粛などで外食需要は伸び悩み、前年同月比3.7%減となったものの、小売需要などの底堅い需要があった。2番手の韓国向けは同0.9%減となったものの1～7月の累計では前年同期比23.2%増と過去最高を更新するペースで推移している。この2大輸出先に接近する中国向けは、現地の好調な需要を背景に記録的な輸出水準が続いており、前年同月比8.2倍となった。4番手の

メキシコ向けについては、同国の経済停滞や米ドルに対するメキシコペソ安が落ち着いてきたことから、同32.7%増となった。

図4 主要輸出先別牛肉輸出量の推移



資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」  
注：枝肉重量ベース。

(調査情報部 河村 侑紀)

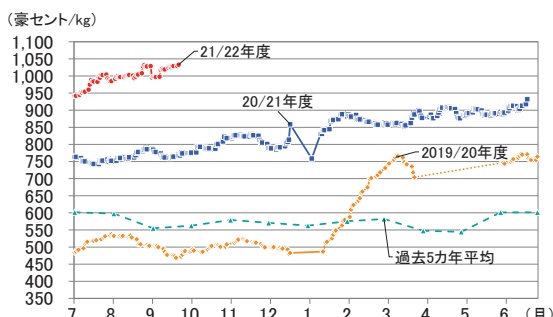
## 飼料供給は潤沢も肉牛供給は引き続きひっ迫

### 肉牛取引価格は再び過去最高を記録

豪州食肉家畜生産者事業団 (MLA) によると、肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標 (EYCI) 価格は、上昇基調が継続している。9月に入り同価格は一時的に1キログラム当たり1000豪セント (820円：1豪ドル=82円<sup>(注1)</sup>) 割れとなることもあったが、その後は反転し、9月21日には再び過去最高となる同1033豪セント (847円) を記録するなど、依然として高値が続いている (図5)。

(注1) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の月末TTS相場。

図5 EYCI価格の推移



資料：MLA

注1：年度は7月～翌6月。

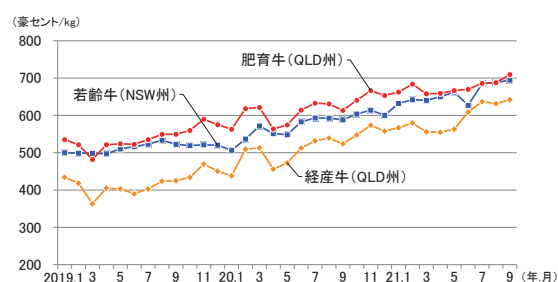
注2：東部地区若齢牛指標 (EYCI) 価格は、東部3州 (クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州) の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

注3：2020年3月26日～6月1日の間は、新型コロナウイルス感染症の影響でEYCI価格の集計を実施していない。

豪州東部地区の主要州の肉用牛生産者販売価格も、依然として上昇傾向で推移している。9月のニューサウスウェールズ (NSW) 州の若齢牛価格は同694.5豪セント (569円)、また、主に日本市場向けとされるクイーンズランド (QLD) 州の去勢肥育牛価格は同

709.5豪セント (582円)、主に米国向けのハンバーガー用パテとして使用される経産牛の価格は同642.3豪セント (527円) と、依然として高値が続いている (図6)。

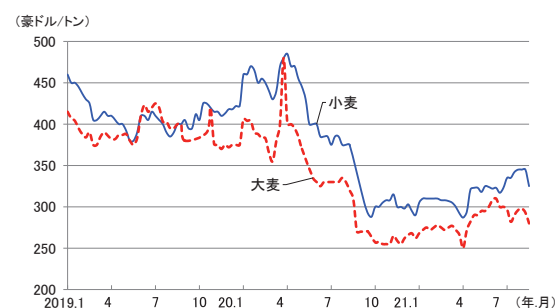
図6 肉用牛販売価格の推移



資料：MLA

一方で飼料価格は、飼料穀物の育成に良好な天候が続いていることを背景に低水準で推移しており、QLD州南東部のダーリングダウン地域における9月10日時点の小麦価格は、1トン当たり325豪ドル (2万6650円)、大麦価格は同280豪ドル (2万2960円) と、いずれも前月割れとなっている (図7)。

図7 ダーリングダウンにおける飼料用小麦および飼料用大麦価格の推移



資料：MLA Weekly

また、豪州農業資源経済科学局 (ABARES) が9月7日に公表した2021/22年度 (7月～翌6月) の小麦および大麦を含む冬作物の生産予測では、生産量は過去10年平均を大きく上回り、昨年度に次ぐ5477万5000

トン（前年度比1.7%減）に達するとしている。内訳として、小麦は3263万3000トン（同2.1%減）、大麦は1247万7000トン（同4.7%減）と見込まれている<sup>（注2）</sup>。

（注2） 海外情報「2021/22年度穀物の生産見通しを发表（豪州）」（[https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01\\_003052.html](https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003052.html)）を参照されたい。

MLAによると、肉牛生産者は高水準の肉牛価格と低水準の飼料価格を背景に、より軽量なもと牛を選択することで調達価格を少しでも低く抑え、利益の確保を目指す傾向があるとしている。

## 減少幅は縮小傾向ながらも、前年同月を下回る

豪州農業・水・環境省（DAWE）によると、国内の牛肉供給のひっ迫を背景に、2021年8月の牛肉輸出量は7万7150トン（前年同月比1.1%減）とわずかに減少した（表2）。また、同年1～8月の累計も58万732トン（前年同期比19.4%減）と大幅に減少したものの、7月と比較すると減少率は縮小した（7月の前年同月比：8.6%減、1～7月の前年同期比：21.6%減）。

表2 輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

	2020年 8月	2021年 8月	前年同月比 (増減率)	2021年 (1～8月)	
				前年同月比 (増減率)	前年同期比 (増減率)
日本	19,661	20,466	4.1%	156,556	▲ 12.3%
米国	18,213	13,562	▲ 25.5%	92,670	▲ 40.8%
韓国	12,967	12,888	▲ 0.6%	103,075	▲ 0.3%
中国	11,722	11,908	1.6%	96,341	▲ 33.8%
東南アジア	7,071	9,613	35.9%	66,479	▲ 1.8%
中東	2,523	2,249	▲ 10.9%	19,328	10.4%
EU	648	802	23.7%	5,441	▲ 12.8%
その他	5,215	5,662	8.6%	40,843	▲ 9.6%
輸出量合計	78,021	77,150	▲ 1.1%	580,732	▲ 19.4%

資料：DAWE

注1：船積重量ベース。

注2：東南アジアは、フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシアの合計。

注3：中東は、イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦を構成する七つの首長国のうち四つの首長国（アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラース・アル＝ハイマ）の合計。

輸出先別に見ると、最大の輸出先である日本向けは2万466トン（前年同月比4.1%増）とやや増加したが、1～8月の累計では15万6556トン（前年同期比12.3%減）となった。

米国向けは1万3562トン（前年同月比25.5%減）と大幅に減少し、1～8月の累計でも9万2670トン（前年同期比40.8%減）と前年を大幅に下回るペースとなっている。

韓国向けは1万2888トン（前年同月比0.6%減）とわずかに減少したものの、1～8月の累計では10万3075トン（前年同期比0.3%減）と日本に次ぐ水準で推移している。

このような動きの中、東南アジア向けは9613トン（前年同月比35.9%増）と大幅に増加し、1～8月の累計でも6万6479トン（前年同期比1.8%減）と、前年に近い水準

となっている。内訳を見ると、特にフィリピンやインドネシア向けが増加している。現地報道などによると、インドネシア向け豪州産肥育もと牛の価格上昇や、米国の干ばつによる輸入飼料価格の高騰などがインドネシアの

肥育業者の経営を圧迫しているとされており、このことが輸出量増加の一因ではないかと推測される。

(調査情報部 国際調査グループ)

## 豚 肉

### カナダ

## 総飼養頭数はわずかに増加するも、と畜頭数は減少し、生体豚輸出は増加

### 豚総飼養頭数はわずかに増加

現在の豚総飼養頭数は1424万9400頭(前年同月比1.0%増)とわずかに増加した(表3)。

カナダ統計局によると、2021年7月1日

表3 豚飼養頭数の推移

(単位：千頭)

	2018年	2019年	2020年	2021年	前年比 (増減率)
繁殖豚	1,238.8	1,225.0	1,244.0	1,261.6	1.4%
肥育豚	12,731.2	12,735.0	12,871.0	12,987.8	0.9%
23kg未満	5,265.0	5,213.1	5,244.9	5,211.9	▲0.6%
23~53kg	2,429.7	2,321.9	2,455.9	2,612.1	6.4%
54~80kg	2,449.8	2,528.1	2,504.1	2,481.9	▲0.9%
81kg以上	2,586.7	2,671.9	2,666.1	2,681.9	0.6%
合計	13,970.0	13,960.0	14,115.0	14,249.4	1.0%

資料：Statistics Canada  
注：各年7月1日現在。

米国農務省海外農業局(USDA/FAS)によると、カナダの繁殖豚の飼養頭数は比較的安定した推移を見せており、2017年のPED(豚流行性下痢)流行後、生産者が衛生対策を強化したことで繁殖成績は向上していると報告されている。ただし、カナダ西部やオンタリオ州の一部で発生している干ばつの影響による飼料コストの上昇次第で、今後の生産動向に変化が表れる可能性も示唆されている。

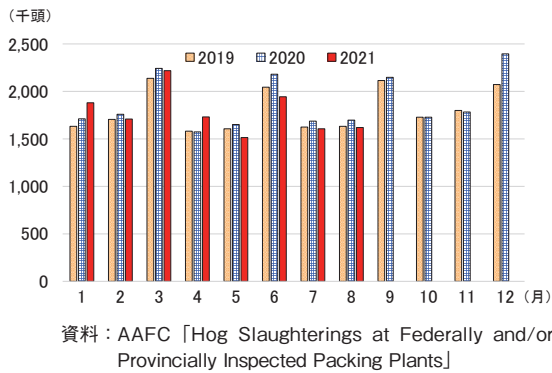
### と畜頭数は前年を下回るも、生体豚輸出は増加

カナダ農業省(AAFC)の「Hog Slaughtering at Federally and/or Provincially Inspected Packing Plants」によると、2021年5月以降の豚と畜頭数は前年を下回って推移している(図8)。これは、ケベック州の大規模豚肉処理・加工場で4カ月以上

続いたストライキの影響が大きいとされ、当該州を中心に肥育豚は農場に滞留、もしくは米国に輸出されている状況にあった<sup>(注1)</sup>。

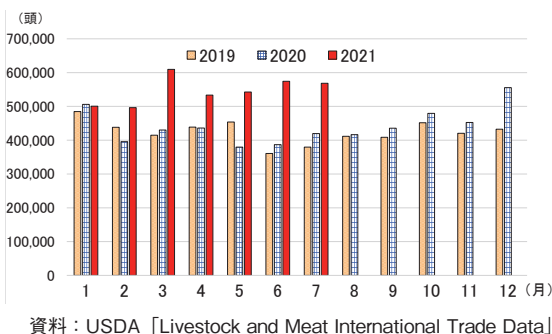
(注1) 4月28日に始まったストライキは、8月末に合意し、現在稼働率を落として工場は再開している。詳細は、海外情報「ケベック州の大規模豚肉処理場で4カ月間以上続いたストライキが終了(カナダ)」([https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01\\_003044.html](https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003044.html))を参照されたい。

図8 豚と畜頭数の推移



それ以前から、米国の豚肉需要増に伴いカナダから米国向け生体豚の輸出は前年を大きく上回って推移している(図9)。USDA/FASは、9月に同じケベック州にある別の豚肉処理・加工場の処理能力が増強されることもあり、今秋には農場での肥育豚の滞留は解消されるとしている。このため、今後、米国向け生体豚輸出は減少していくと分析している。

図9 米国への生体豚輸出頭数の推移

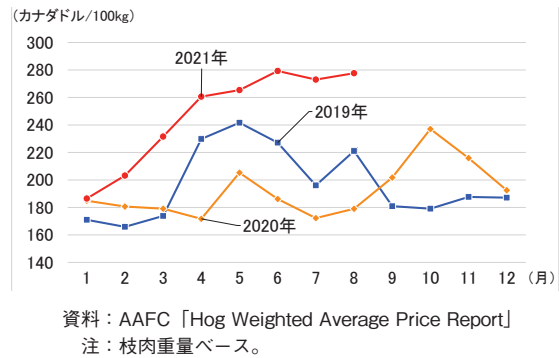


## 肥育豚価格は堅調に推移

2021年8月の肥育豚価格は、米国からの生体豚需要およびカナダ国内の堅調な需要を反映し、前年同月比55.1%高の100キログラム当たり278カナダドル(2万4742円：1カナダドル=89円<sup>(注2)</sup>)と前年同月を大幅に上回って推移している(図10)。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の月末TTS相場。

図10 肥育豚価格の推移



## 中国向け豚肉輸出は大幅減も、引き続き輸出は安定と予測

カナダ統計局によると、2021年7月の豚肉輸出量は8万1300トン(前年同月比18.3%減)と大幅に減少した(表4、図11)。輸出先別に見ると、近年、輸出先のトップにあった中国向けが中国国内の豚肉生産の回復から1万7900トン(同63.4%減)と大幅に減少し、米国向けが首位(2万1700トン、同38.0%増)となった。また、USDA/FASによると、作業員の新型コロナウイルス感染が確認された食肉処理・加工場からの中国向けの輸出を一時停止しており、カナダの豚肉生産の60%に相当する処理・加工場がこれに該当していることが影響したと分析

表4 輸出先別豚肉輸出量の推移

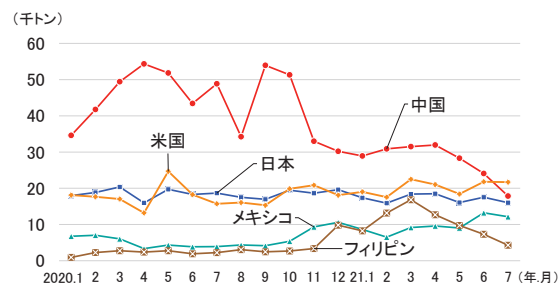
(単位：千トン)

	2020年	2021年	前年同月比 (増減率)	シェア	2021年	前年同期比 (増減率)	シェア
	7月	7月			(1~7月)		
米国	15.7	21.7	38.0%	26.7%	142.0	13.9%	21.0%
中国	48.9	17.9	▲63.4%	22.0%	193.5	▲40.3%	28.6%
日本	18.7	16.0	▲14.2%	19.7%	119.8	▲7.7%	17.7%
メキシコ	3.9	12.1	210.7% (約3.1倍)	14.9%	68.3	93.6%	10.1%
フィリピン	2.2	4.3	91.2%	5.3%	72.2	373.9% (約4.7倍)	10.7%
韓国	2.5	3.1	24.1%	3.8%	23.6	47.6%	3.5%
台湾	1.4	0.9	▲36.6%	1.1%	11.6	35.4%	1.7%
コロンビア	0.0	0.6	2,250% (約23.5倍)	0.8%	5.3	670.1% (約7.7倍)	0.8%
ベトナム	3.6	0.5	▲84.9%	0.7%	14.3	4.5%	2.1%
チリ	0.0	0.5	854.2% (約9.5倍)	0.6%	2.3	29.3%	0.3%
その他	2.5	3.7	43.5%	4.5%	23.9	▲0.5%	3.5%
合計	99.5	81.3	▲18.3%	100.0%	676.8	▲2.5%	100.0%

資料：Statistics Canada  
 注1：HSコード0203。  
 注2：製品重量ベース。

している。ただし、世界経済の回復基調による堅調な食肉需要や、アフリカ豚熱発生により国内生産量が減少したフィリピンなど中国以外の国からの需要、また、カナダドル安で推移する為替などを要因に、引き続き豚肉輸出は安定して推移すると予測している。

図11 主要輸出先別豚肉輸出量の推移



資料：Statistics Canada  
 注1：HSコード0203。  
 注2：製品重量ベース。

(調査情報部 上村 照子)

E U

2021年上半期の豚肉生産量は前年同期比4.2%増

6月の豚肉生産量は前年同月比1.2%増

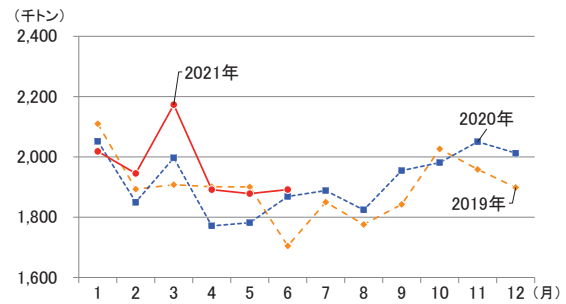
欧州委員会によると、2021年6月の豚肉生産量（EU27カ国）は、1頭当たり枝肉重

量が前年同月比0.5%減の93.2キログラムとなったものの、と畜頭数が同1.8%増の2030万頭となったことから、同1.2%増の189万1630トンとなった（図12）。

この結果、上半期（1～6月）の豚肉生産

量は、前年同期比4.2%増の1179万7580トンとなった(表5)。主要生産国別に見ると、輸出が堅調なスペイン、デンマーク、オランダなどが前年同期を上回った。一方で、ドイツは、昨年9月に野生イノシシでアフリカ豚熱の発生が確認されて以来、主要輸出先であった中国などアジア諸国を中心に輸入停止措置が続いていることから、主要生産国の中で唯一、前年同期を下回った。

図 12 豚肉月別生産量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：枝肉重量ベース。

表 5 主要生産国別豚肉生産量の推移

(単位：千トン)

	2020年 6月	2021年 6月	前年同月比 (増減率)	2021年 (1～6月)	前年同期比 (増減率)
ドイツ	405	409	1.0%	2,523	▲ 1.3%
スペイン	404	401	▲ 0.7%	2,605	4.1%
フランス	187	188	0.5%	1,102	0.7%
ポーランド	154	147	▲ 4.0%	995	5.8%
デンマーク	139	147	5.8%	879	13.0%
オランダ	119	146	22.5%	870	9.9%
イタリア	113	102	▲ 9.2%	678	9.7%
その他	348	351	0.8%	2,145	5.2%
合計	1,869	1,892	1.2%	11,798	4.2%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注：枝肉重量ベース。

## 豚肉輸出量は中国向けが3カ月連続で前年同月を下回る

欧州委員会によると、2021年6月のEU域外への豚肉(生鮮・冷蔵・冷凍)輸出量(EU27カ国)は、前年同月比3.1%減の26万9834トンと18年12月以来、29カ月ぶりに前年同月をやや下回った(表6)。

主要輸出先別に見ると、最大の輸出先である中国向けが同25.7%減と3カ月連続で前年同月を下回った。同国向けは、上半期前半の輸出量が前年同期を上回り、EU域外向け輸出量の増加をけん引していたものの、同国

内の豚肉供給量の回復もあり、輸出需要には陰りが見え始めている。

一方で、アフリカ豚熱の発生により供給不足が続いているフィリピン向け、ベトナム向けは、上半期の輸出量がそれぞれ前年同期比約4倍と大幅に増加している。

主要輸出国別の推移を見ると、ドイツは前述の理由から上半期の輸出量が同52.8%減と大幅に下回った(表7)。現地情報によると、ドイツは中国に対して地域主義<sup>(注1)</sup>の適用を求めているものの、交渉は難航しており、いまだに輸入停止措置が続いている。その結果、他の主要輸出国がドイツの代替国として中国



向けを中心に輸出量を大幅に増やしたとみられる。

(注1) 地域主義とは、疾病発生国であっても、清浄性(当該疾病が発生していないこと)が確認できる地域からの輸入であれば認めるもの。

表6 輸出先別豚肉輸出量の推移 (EU域外向け)

(単位：千トン)

	2020年 6月	2021年 6月	前年同月比 (増減率)	2021年	前年同期比 (増減率)
				(1～6月)	
中国	157	117	▲25.7%	1,197	15.6%
日本	23	27	19.9%	131	▲13.8%
フィリピン	4	11	196.3% (約3.0倍)	85	330.1% (約4.3倍)
韓国	16	18	7.0%	93	4.5%
香港	5	4	▲16.9%	49	33.7%
米国	6	7	28.8%	37	41.0%
ベトナム	4	5	22.5%	44	320.8% (約4.2倍)
その他	64	81	27.0%	422	16.4%
合計	278	270	▲3.1%	2,059	18.5%

資料：欧州委員会「Eurostat」  
注：製品重量ベース。

表7 輸出国別豚肉輸出量の推移 (EU域外向け)

(単位：千トン)

	2020年 6月	2021年 6月	前年同月比 (増減率)	2021年	前年同期比 (増減率)
				(1～6月)	
スペイン	97	89	▲8.7%	787	50.1%
デンマーク	44	56	28.2%	374	21.1%
オランダ	33	37	13.3%	291	25.1%
ドイツ	54	27	▲49.0%	174	▲52.8%
フランス	12	16	27.6%	120	52.4%
ポーランド	10	13	26.2%	78	43.3%
その他	28	31	12.1%	234	38.1%
合計	278	270	▲3.1%	2,059	18.5%

資料：欧州委員会「Eurostat」  
注：製品重量ベース。

## 2021年のオランダの豚飼養頭数は、前年を4.3%下回る

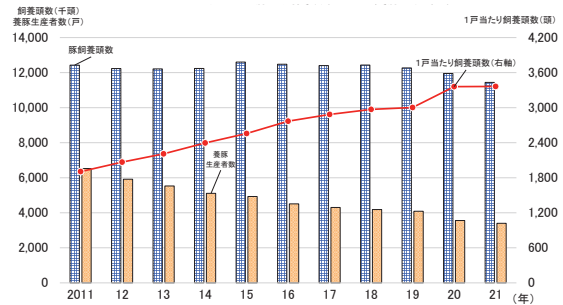
2021年のオランダの豚飼養頭数は、前年比4.3%減の1143万8381頭となった(図13)。近年、1200万頭台で推移してきたオランダの豚飼養頭数は、2年連続でこれを下

回っている。また、養豚生産者数も減少傾向で推移しており、21年は同4.4%減(同156戸減)の3401戸と11年の約半数にまで減少している。一方、1戸当たり飼養頭数は年々増加傾向で推移し、11年から20年にかけて約1.8倍となったものの、21年は同0.1%増の3363頭と前年並みとなった。

オランダ中央統計局によると、豚飼養頭数および養豚生産者の減少は、養豚生産者への廃業支援策の影響もあるとしている（注2）。

（注2） 海外情報「オランダ政府による養豚生産者への廃業支援策で278戸が廃業へ（EU）」（[https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01\\_002991.html](https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_002991.html)）を参照されたい。

図13 オランダの豚飼養頭数および養豚生産者数



資料：オランダ中央統計局

注1：各年4月1日。

注2：21年は暫定値。

（調査情報部 小林 智也）

## メキシコ

# 国内外の需要や飼料高などで豚肉価格は高水準で推移

## 豚肉生産量、引き続き増加の見通し

米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2021年7月29日、21年および22年のメキシコの豚肉需給見通しを発表した。これによると、21年の生産量は149万5000トン（前

年比3.0%増）、22年は154万トン（同3.0%増）と引き続き増加が見込まれている（表8）。これは、国内の外食需要の回復や好調な輸出需要が一因とされている。これら豚肉需要を背景に枝肉価格が堅調に推移する中、一部の大手パッカーは増産体制の整備を進めている。

表8 メキシコの豚肉需給の推移

（単位：千頭、千トン、%）

	2018年	2019年	2020年	2021年 (予測)	2022年 (予測)	前年比 (増減率)
と畜頭数	17,600	18,500	19,000	19,700	20,300	3.0%
供給量	2,509	2,393	2,396	2,480	2,520	1.6%
生産量	1,321	1,408	1,451	1,495	1,540	3.0%
輸入量	1,188	985	945	985	980	▲0.5%
輸出量	178	234	344	390	390	0.0%
消費量	2,331	2,159	2,052	2,090	2,130	1.9%

資料：USDA Gain Report

注：枝肉重量ベース。

輸入量については、21年は98万5000トン（同4.2%増）、22年は98万トン（同0.5%減）と見込まれている。輸入豚肉は加工仕向け用のもも、うでが中心とされており、約9

割が米国産、残りはカナダ産などとなっている。

輸出量については、21年は39万トン（同13.4%増）、22年は前年並みと見込まれて

いる。メキシコの主要輸出先は東アジアと米国であり、日本や韓国向けには一次加工品、米国向けにはロースなどの高級部位を中心に輸出されている。21、22年の輸出量はともに主要輸出先での旺盛な豚肉需要を背景に高水準になると見込まれている。

## 8月の生体価格、前年同月比4割高

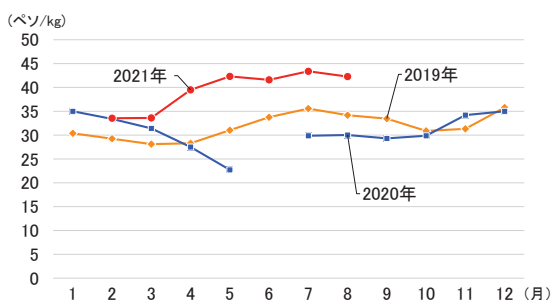
メキシコでは、国内外の好調な需要に加えてトウモロコシなど飼料コストの上昇に伴い、豚肉など食肉の小売価格は記録的な高水準で推移している。

21年8月の生体豚価格は、前年同月比40.8%高の1キログラム当たり42.28ペソ（275円：1ペソ=6.5円<sup>(注)</sup>）となり、6カ月連続で前年を上回って推移している（図14）。また、同月の豚枝肉価格は、生体豚価格の上昇を反映し、同13.7%高の1キログラム当たり54.0ペソ（351円）と高水準で推移している（図15）。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の月末TTS相場。

このような中でメキシコ政府は21年6月28日、食肉の価格上昇を抑制するため、牛肉、豚肉、鶏肉の無税輸入枠の導入を発表した。無税輸入枠は牛肉が7000トン、豚肉が1万

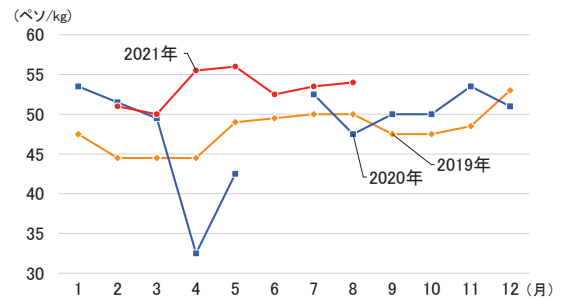
図14 生体豚価格の推移



資料：SNIIM

注：2020年6月、21年1月は未発表。

図15 豚枝肉価格の推移



資料：SNIIM

注：2020年6月、21年1月は未発表。

トン、鶏肉が3万トンと設定されており、実施期間は発表日から同年12月31日までとなっている。これにより、21年の豚肉輸入量は前年比4.2%増と見込まれているが、USDAなどによると、主要輸入先である米国からの豚肉輸入がすでに無税であることから、価格上昇の抑制効果は限定的との見方もある。また、メキシコでは豚肉の生産費の約75%が飼料費とされており、輸入飼料の割合が高いことから、豚肉価格は引き続き高止まりでの推移が見込まれている。

## 21年上半期の豚肉輸出量、前年同期比26.1%増

メキシコの豚肉輸出量は、主要輸出先の旺盛な豚肉需要を背景に好調に推移している。2021年上半期（1～6月）は12万6100トン（前年同期比26.1%増）と大幅に増加した（表9）。

20年に前年比7倍超まで急増した中国向けは、21年上半期も前年同期を大幅に上回ったものの、中国国内の豚肉生産量が回復し、豚肉価格が低下していることから、5、6月は前年同月を下回るなど、今後の動向が注目される。

表 9 輸出先別豚肉輸出量の推移

(単位：千トン)

	2019年	2020年	2020年		2020年 (1~6月)	2021年 (1~6月)	2021年	
			前年比 (増減率)	シェア			前年同期比 (増減率)	シェア
日本	118.0	117.4	▲0.5%	52.0%	58.7	63.7	8.5%	50.5%
中国	11.1	79.8	620.8% (約7.2倍)	35.3%	31.5	46.1	46.2%	36.6%
米国	14.2	24.6	72.8%	10.9%	8.0	12.5	57.4%	9.9%
韓国	9.0	3.6	▲59.9%	1.6%	1.7	3.4	97.9%	2.7%
その他	0.0	0.4	—	0.2%	0.0	0.3	—	0.2%
合計	152.3	225.8	48.2%	100.0%	99.9	126.1	26.1%	100.0%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード0203。

注2：製品重量ベース。

(調査情報部 河村 侑紀)

## 牛乳・乳製品

### 米 国

## 生乳生産量の増加はわずかながらも、乳製品輸出は好調

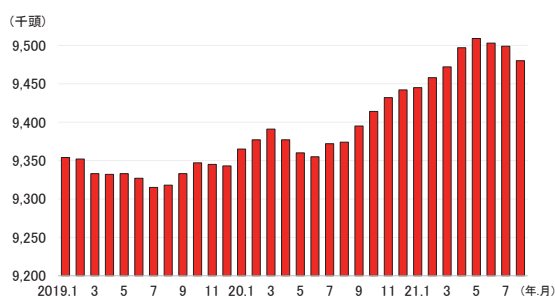
### 飼養頭数は減少も生乳生産は微増

米国農務省全国農業統計局 (USDA/NASS) の「Milk Production」によると、2021年8月の乳用経産牛飼養頭数は前年同月比1.1%増の948万頭となった (図16)。飼養頭数は20年6月を底に拡大傾向で推移していたが、本年5月の950万9000頭をピークに3カ月連続で減少している。USDAの

「Livestock, Dairy, and Poultry Outlook」によると、飼料コストの高騰などによる収益の低下に加え、現在、牛肉の価格が高騰しているため乳牛の淘汰が進んでおり、今後も飼養頭数の減少は続く<sup>とうた</sup>と分析されている。

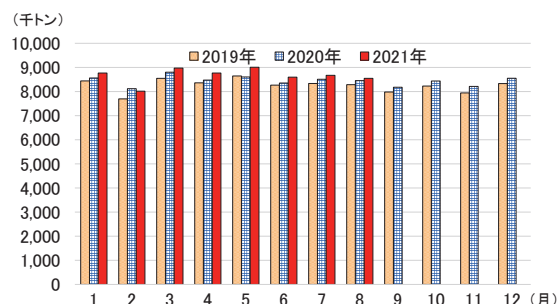
一方、8月の生乳生産量は、前年同月比1.1%増の854万6000トンとなった (図17)。飼養頭数が減少傾向にある中で、乳牛1頭当たり乳量の増加が生乳増産を支えてき

図 16 乳用経産牛飼養頭数の推移



資料：USDA/NASS 「Milk Production」

図 17 生乳生産量の推移



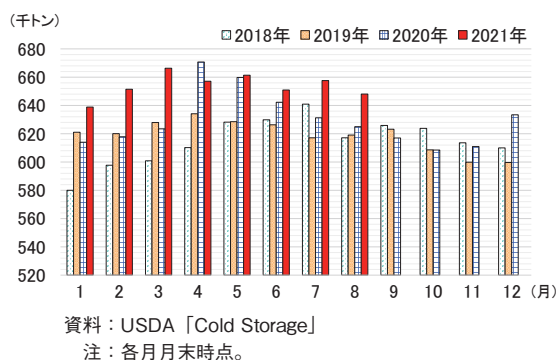
資料:USDA 「Milk Production」

たが、8月は猛暑の影響で1頭当たり乳量が前年同月比減となって相殺され、飼養頭数の増加分の増量にとどまった。

## チーズ、バター在庫量は引き続き高水準

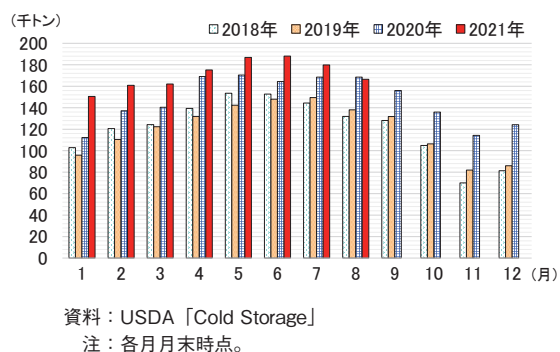
USDA/NASSの「Cold Storage」によると、2021年8月のチーズの期末在庫量は64万8053トン（同3.7%増）となり、8月としては過去最高を記録した（図18）。COVID-19対策の緩和に伴う外食産業および小売業の高い需要などから、チーズ生産量が増加し、在庫は前月から取り崩したものの、引き続き高水準となった。

図18 チーズ在庫量の推移



一方、8月のバターの期末在庫量は16万6448トン（同1.2%減）となり、26カ月ぶりに前年同月を下回った（図19）。これは、労働力不足により乳製品工場の稼働率が低下し、バターの生産量が減少したことに起因している。現地報道によると、カリフォルニア州では乳製品工場の労働力不足に加え、トラック運転手の不足もあり、バター生産量が減少したとされている。しかし、バター在庫量は、COVID-19流行前の2019年時の水準を大きく上回っている。

図19 バター在庫量の推移



## 港湾の混乱により一部品目でやや減少するも全体の輸出は好調

2021年7月の乳製品輸出量は、世界経済の回復と米ドル安を背景に比較的好調に推移した。

品目別に見ると、バター（前年同月比81.8%増）、チーズ（同25.9%増）などの増加が顕著となった（表10）。

脱脂粉乳は、メキシコ、中国向けが増加し、1～7月の累計では前年同期を上回ったものの、主要市場である東南アジア向けが減少したことで、7月の輸出量はやや減少（同3.1%減）した。アメリカ乳製品輸出協会（USDEC）は、東南アジア地域における新型コロナウイルスのデルタ株の流行や輸出価格の上昇などが減少の一因としながらも、米国内の輸出港における物流の混乱によるところが大きいと分析している。

一方、チーズは、7月の輸出実績としては過去最高を記録し、中でも中南米向けが好調となった。USDECは、南米での新型コロナウイルスワクチン接種の進展、各国の経済活動の再開およびメキシコや中米での観光客増加を背景に、比較的安価な米国産チーズの需要が増加したことを要因として挙げている。現在、経済回復に伴う物流の急増などにより、

米国西海岸を中心とする輸出港で混乱が起き、物流が滞留しているが、陸路輸送や南部の港の利用が可能な中南米向け輸出については、この影響を受けていないことも大きな要因である。また、オリンピック後の在庫補充などにより日本向けも増加するなど、中南米以外の国・地域からの需要も高くなっている。

ホエイは、中国向けなどを中心に1～7月の累計では前年同期を上回ったものの、7月の輸出量は前年同月を下回った。USDECは、たんぱく質含有量を高めたWPC（たんぱく質濃縮ホエイ）の生産量が増加したことで、ホエイの生産量が減少したことを反映したものと分析している。

表 10 主要乳製品輸出量の推移

(単位：千トン)

	2020年 7月	2021年 7月	前年同月比 (増減率)	2021年 (1～7月)	
				前年同期比 (増減率)	前年同期比 (増減率)
バター	2.0	3.6	81.8%	27.1	135.2% (約2.4倍)
脱脂粉乳	75.3	73.0	▲3.1%	542.6	12.0%
チーズ	29.3	36.8	25.9%	233.9	5.2%
ホエイ	18.5	16.9	▲8.4%	137.6	18.6%
WPC	12.6	13.6	7.9%	83.5	4.6%
乳糖	32.5	32.2	▲1.1%	230.1	▲1.0%

資料：USDA [Dairy Data]  
注：製品重量ベース。

(調査情報部 上村 照子)

## N Z

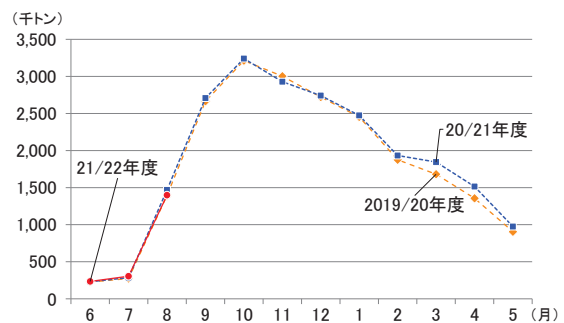
### 8月の生乳生産量、前年同月を9カ月ぶりに下回る

#### 8月の生乳生産量は、前年同月比4.8%減

ニュージーランド乳業協会 (DCANZ) によると、2021年8月の生乳生産量は、前年同月比4.8%減の139万7000トンとやや減少し、20年11月以来9カ月ぶりに前年同月を下回った (図20)。現地報道によると、昨年の記録的な暖冬と打って変わり、8月は強い偏西風が大雨と寒波をもたらしたことで、搾乳環境が大きく変化したことを生乳生産量減少の要因として挙げている。また、昨年は牧草生育のピークである10月に北島が平年よりも乾燥した気候であったことから、飼料

不足なども生乳生産に影響を与えた可能性がある」とされている。今後、9～10月にかけて天候は平年並みと予想されており、牧草の生育状況が改善し、生乳生産量も回復すると見込まれている。

図20 生乳生産量の推移



資料：DCANZ  
注：年度は6月～翌5月。

## 8月の乳製品輸出量、脱脂粉乳を除き前年同月比減

ニュージーランド統計局（Stats NZ）によると、2021年8月の乳製品輸出量は、主要4品目のうち脱脂粉乳が前年同月を上回る一方、全粉乳、バターおよびバターオイル、チーズは前年同月を下回った（表11、図21）。

脱脂粉乳については、主要輸出先である中国向けが前年同月比5.6%減の3250トンとやや減少した一方、マレーシア向けが同20.9%増の1076トンと大幅に増加するなど東南アジア向けが好調となったことから、全体では大幅な増加となった。

一方、全粉乳は、中国向けが同3.3%増の

1万6366トンとやや増加したものの、東南アジア向けなどが減少し、全体では同23.7%減の3万8436トンと大幅に減少した。

バターおよびバターオイルは、中国向けが同121.6%増と大幅に増加したが、前年同月に輸出量の多かったロシアやエジプト向けがそれぞれ同82.2%減、81.2%減といずれも大幅に減少し、全体では同2.5%減の1万4038トンとわずかに減少した。

チーズは、主要輸出先である日本向けが前年同月比63.4%減の1791トンと大幅に減少したほか、中国や韓国向けも前年同月を下回った。全体では、同30.7%減の1万3420トンと20年10月以降10カ月ぶりに前年同月を下回った。

表 11 乳製品輸出量の推移

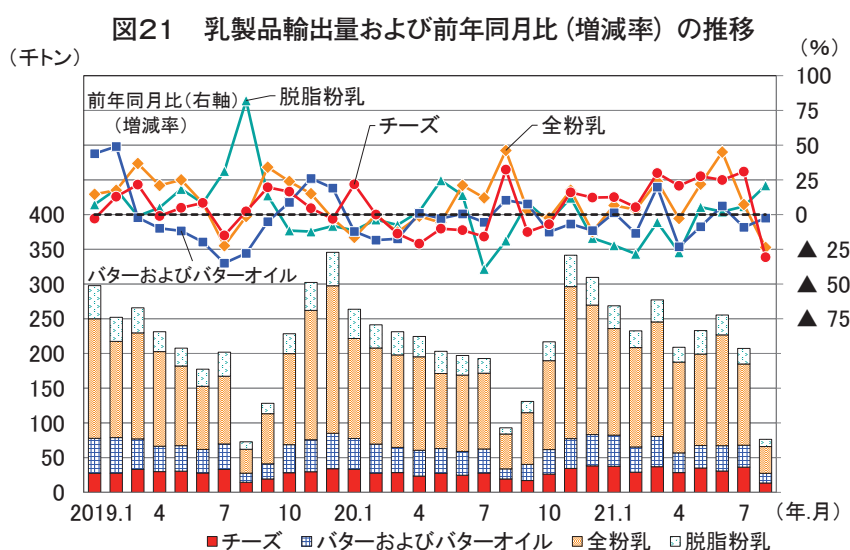
(単位：トン)

	2020年 8月	2021年 8月	前年同月比 (増減率)	2021/22年度 (7～8月)	
				前年同月比 (増減率)	前年同期比 (増減率)
脱脂粉乳	8,735	10,562	20.9%	32,945	10.3%
全粉乳	50,348	38,436	▲23.7%	155,570	▲2.5%
バターおよび バターオイル	14,401	14,038	▲2.5%	45,545	▲7.2%
チーズ	19,375	13,420	▲30.7%	49,695	5.5%

資料：Stats NZ

注1：製品重量ベース。

注2：年度は7～翌6月。



資料：Stats NZ

注：製品重量ベース。

## 乳製品国際価格は、粉乳類が前回から上昇

2021年9月21日に開催されたグローバルデイリートレード（GDT：月2回開催さ

れるフォンテラ社主催の電子オークション。乳製品の国際価格の指標とされる）の乳製品主要4品目の1トン当たり平均取引価格は、以下の通りとなった（表12、図22）。

表 12 GDT乳製品取引価格（2021年9月21日開催）

（単位：米ドル/トン、万円/トン）

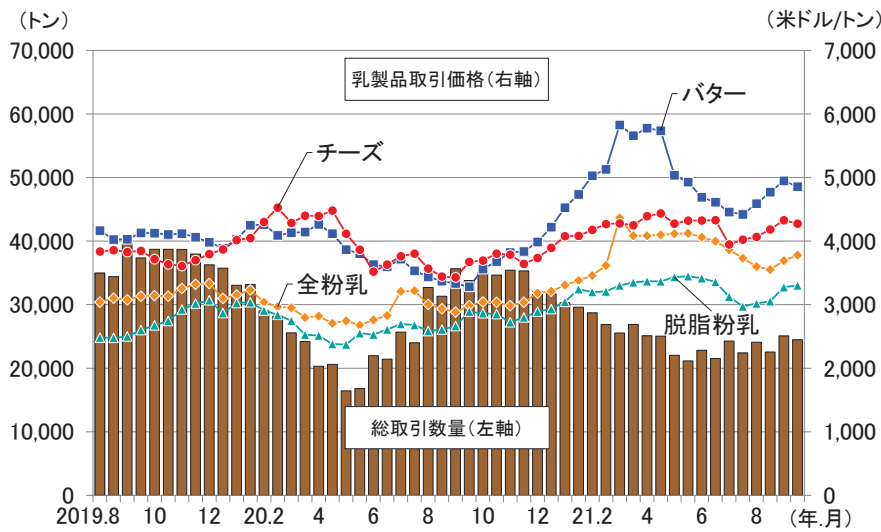
品目	価格		前年比 (騰落率)	前回は (騰落率)
	米ドル	万円		
脱脂粉乳	3,302	37.3	14.3%	0.9%
全粉乳	3,777	42.7	26.5%	2.3%
バター	4,857	54.9	48.0%	▲1.8%
チーズ	4,274	48.3	16.3%	▲1.2%

資料：GDT

注1：1米ドル=113円（三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の月末TTS相場）。

注2：前回は9月7日に開催。

図22 GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



資料：GDT

前回開催（本年9月7日）時との比較では、脱脂粉乳の価格は0.9%高の1トン当たり3302米ドル（37万3000円）となった。主要輸出先である北アジア<sup>(注)</sup>のほかアフリカからの買いがけん引し、前回は上回った。

全粉乳は、前回比2.3%高の同3777米ドル（42万7000円）となった。東南アジア

からの買いが最も多く、北アジアの買いは前回は下回ったものの、全体としてはわずかな上昇にとどまった。

バターは、同1.8%安の同4857米ドル（54万9000円）となり、前回はわずかに下回った。北アジアの購入量が最も多かったものの、昨年同時期と比べて購入量は下回った。



チーズは、同1.2%安の同4274米ドル（48万3000円）とわずかに下落した。北アジアのほか東南アジアやアフリカからの買いが強かった。

現地報道によれば、東南アジアやアフリカからの購入総額は増加傾向にあり、世界的な

乳製品需要の高まりを反映しているとされる。

(注) ニュージーランド外務貿易省は、中国、日本、香港、韓国、台湾を北アジアとしている。

(調査情報部 廣田 李花子)

## 中国

# 生乳生産量は増加するも、生乳価格は引き続き高値

## 2021年上半期の生乳生産量は増加

中国では、国民所得の増加や健康意識の高まりなどから乳製品の消費が定着しつつある中、COVID-19の拡大が契機となり、発酵食品の持つ免疫力増強効果への期待などから、ヨーグルトを中心とした乳製品需要が伸びているとされている。こうした状況を背景に、同国では、生乳や乳製品の増産機運が一段と高まっており、中国国家统计局によると、2021年1～6月の生乳生産量は前年同期比7.6%増の1540万トンとなった。

中国政府は、旺盛な需要に対応すべく酪農業発展の重要課題として、酪農家の大規模化と遺伝的改良による1頭当たり乳量の増加を挙げている。21年7月に中国農業農村部と中国乳業協会が共同で発表した「中国乳業品質報告（2021年）」によると、2020年の大規模農家飼養割合（全乳牛飼養頭数に占める、乳牛飼養頭数100頭以上の農家で飼養される乳牛の割合）は67.2%（前年比3.2ポイント増）、乳牛1頭当たり乳量は年間8.3トン（同0.5トン増）となった。

## 生乳価格は引き続き高値で推移

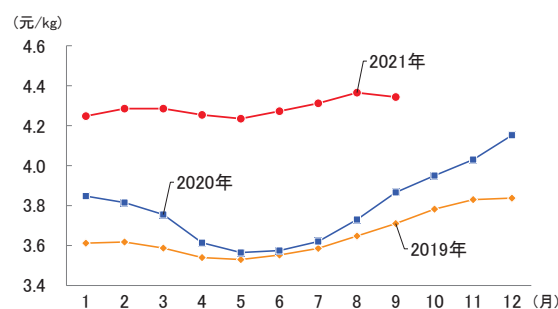
生乳生産は増加しているものの乳製品需要が引き続き堅調なことから、2021年9月の生

乳価格は1キログラム当たり4.3元（76円：1元＝17.6円<sup>(注)</sup>）と引き続き高値を維持している（図23）。生乳価格は5月以降、緩やかな上昇にあるが、この要因について現地専門家は、気温上昇に伴い生乳の供給量が減少した一方、アイスクリームなどの需要増加により粉乳需要が増加したためと分析している。

今後の生乳価格の動向については、国内乳業メーカーの調達する原料が比較的安価な輸入品にシフトすることで、現在と同程度で推移するという予測がある。一方、需要期である春節に向けて、さらに10%程度上昇するという予測もあるなど現地専門家の間でも見解が分かれている。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の月末TTS相場。

図 23 生乳価格の推移



資料：中国農業農村部

注：主要10省・自治区（全国の生乳生産量の8割以上を占める）の農家庭先価格の平均。

## 乳製品輸入はおおむね増加するも、 一部品目では国産回帰の動き

2021年1～8月の乳製品輸入量は、引き続き需要が国内生産を上回る状況にあることからおおむね増加傾向にあるが、国産にシフトしているとされるヨーグルトと育児用調製粉乳については、前年同期に比べて減少した(表13)。

一方、全粉乳および脱脂粉乳については本年に入ってから継続的に増加しており、8月

時点ですでに昨年の年間実績と同程度の輸入水準に達している。この要因について現地専門家は、中国国内の生乳価格の高止まりによって国産と外国産との原料価格差が拡大したため、国内の乳業メーカーがコストを考慮して輸入粉乳を大量に利用しているためとしている。しかしながら、現地報道によると、粉乳の国際価格の高騰や同国内の粉乳在庫量が十分に確保されていることなどから、第4四半期(10～12月)には輸入量が落ち着くとの見方も報じられている。

表 13 主な乳製品の品目別輸入数量の推移

(単位：万トン)

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	前年同期比 (増減率)
					(1～8月)	
全粉乳	47.0	52.1	67.1	64.4	68.4	40.9%
脱脂粉乳	24.7	28.0	34.4	33.6	31.1	41.8%
飲用乳	52.9	54.4	72.9	84.5	67.5	38.5%
ヨーグルト	2.8	2.7	3.2	2.8	1.6	▲19.5%
チーズ	10.8	10.8	11.5	12.9	12.9	45.1%
バター	6.6	8.7	6.2	8.6	7.5	22.6%
育児用調製粉乳	30.3	33.3	35.6	34.8	17.5	▲24.7%
ホエイ	52.7	55.5	45.1	62.3	52.4	33.2%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは、全粉乳が0402.21と0402.29、脱脂粉乳が0402.10、飲用乳が0401.10と0401.20、ヨーグルトが0403.10、チーズが0406、バターが0405.10、育児用調整粉乳が1901.10、ホエイが0404.10。

(調査情報部 阿南 小有里)

# 飼料穀物

## 世界

### 2021/22年度の世界のトウモロコシ生産量、前年度からかなりの程度増加する見込み

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2021年9月10日、2021/22年度の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した（表14）。

これによると、世界のトウモロコシ生産量は前月から1165万トン上方修正の11億9777万トン（前年度比7.2%増、前月比1.0%増）と見込まれている。国別に見ると、米国は作付面積の増加などにより625万トン、アルゼンチンは200万トン、中国は単収が過去5カ年平均を5%上回るなどにより500万トン、それぞれ上方修正された。

輸出量は、世界全体で2億127万トン（同12.1%増、同1.7%増）と前月からわずかに上方修正された。国別に見ると、増産予測の

米国が191万トン、アルゼンチンが200万トン、それぞれ上方修正された。

輸入量は、世界全体で1億8595万トン（同0.5%増、同0.7%増）と前月からわずかに上方修正された。国別に見ると、主要輸入国である中国は2600万トンと前月から変わらないものの、引き続き高水準での推移が見込まれている。

消費量は、世界全体で11億8662万トン（同4.4%増、同0.4%増）と前月からわずかに上方修正された。国別に見ると、増産予測の米国が191万トン上方修正された。

期末在庫は、生産量の上方修正などに伴い、前月から4.6%増の2億9763万トン（同3.9%増）と見込まれている。

表 14 主要国のトウモロコシの需給見通し (2021年9月10日米国農務省公表)

(単位：百万トン)

国名	2019/20年度	2020/21年度 (推計値)	2021/22年度		
			(8月予測)	(9月予測)	前年度比 (増減率)
米国					
期首在庫	56.41	48.76	28.37	30.15	▲ 38.2%
生産量	345.96	360.25	374.68	380.93	5.7%
輸入量	1.06	0.64	0.64	0.64	0.0%
消費量	309.55	309.77	311.16	313.07	1.1%
輸出量	45.13	69.73	60.96	62.87	▲ 9.8%
期末在庫	48.76	30.15	31.56	35.77	18.6%
アルゼンチン					
期首在庫	2.37	3.62	1.92	2.12	▲ 41.4%
生産量	51.00	50.00	51.00	53.00	6.0%
輸入量	0.00	0.01	0.01	0.01	0.0%
消費量	13.50	14.00	14.50	14.50	3.6%
輸出量	36.25	37.50	36.00	38.00	1.3%
期末在庫	3.62	2.12	2.43	2.63	24.1%
ブラジル					
期首在庫	5.31	5.23	4.73	4.73	▲ 9.6%
生産量	102.00	86.00	118.00	118.00	37.2%
輸入量	1.65	3.50	1.70	1.70	▲ 51.4%
消費量	68.50	68.00	73.00	73.00	7.4%
輸出量	35.23	22.00	43.00	43.00	95.5%
期末在庫	5.23	4.73	8.43	8.43	78.2%
ウクライナ					
期首在庫	0.89	1.48	0.89	0.90	▲ 39.2%
生産量	35.89	30.30	39.00	39.00	28.7%
輸入量	0.03	0.02	0.02	0.02	0.0%
消費量	6.40	7.30	6.80	6.80	▲ 6.8%
輸出量	28.93	23.60	32.00	32.00	35.6%
期末在庫	1.48	0.90	1.11	1.11	23.3%
中国					
期首在庫	210.18	200.53	198.18	202.19	0.8%
生産量	260.78	260.67	268.00	273.00	4.7%
輸入量	7.58	26.00	26.00	26.00	0.0%
消費量	278.00	285.00	294.00	294.00	3.2%
輸出量	0.01	0.01	0.02	0.02	2.0倍
期末在庫	200.53	202.19	198.16	207.17	2.5%
世界計					
期首在庫	322.60	306.09	280.75	286.48	▲ 6.4%
生産量	1,118.66	1,117.11	1,186.12	1,197.77	7.2%
輸入量	167.61	185.01	184.61	185.95	0.5%
消費量	1,135.17	1,136.70	1,182.24	1,186.62	4.4%
輸出量	172.40	179.59	197.85	201.27	12.1%
期末在庫	306.09	286.48	284.63	297.63	3.9%

資料：USDA/WAOB [World Agricultural Supply and Demand Estimates]

注：各国の穀物年度 世界、米国：9月～翌8月/中国、ウクライナ：10月～翌9月/アルゼンチン、ブラジル：3月～翌2月。

(調査情報部 荒川 侑子)

## 2021/22年度世界の大豆期末在庫、生産増と需要緩和で上方修正

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2021年9月10日、2021/22年度の世界の大豆需給予測値を更新した。

これによると、世界の大豆生産量は前月から79万トン上方修正の3億8442万トン（前年度比5.8%増）と前年度に続く記録的な水準が見込まれている（表15）。最大の生産国であるブラジルが過去最大とされるほか、主要生産国の米国やアルゼンチンも前年度を上回ると見込まれている。なお、米国は、単収見通しの上方修正（1エーカー当たり0.6ブッシェル増）が反映されている。

輸出量は、世界全体で1億7317万トン（同4.5%増）と前月から84万トン上方修正された。国別に見ると、最大の輸出国であるブラジルは、作付面積の拡大などに伴う生産増を背景に9300万トン（同13.4%増）と前年度をかなり大きく上回る一方、米国は、繰越在庫が少ないことなどから5688万トン（同7.5%減）と前年度をかなりの程度下回ると見込まれている。

輸入量は、世界全体で1億7094万トン（同2.5%増）と前月から33万トン上方修正された。国別に見ると、最大の輸入国である中国は前月と変わらず1億100万トン（同2.0%増）に据え置かれた。中国は、国内でのアフリカ豚熱発生後、減少した豚飼養頭数の回復に歩調を合わせる形で世界の大豆貿易をけん引してきたが、その後の豚飼養頭数の増加が豚肉価格の下落を招いたことで、養豚生産に一定の抑制が生じ飼料需要は落ち着きを見せている。

消費量（搾油仕向け）は、世界全体で3億2935万トン（同3.6%増）と前月から22万トン下方修正された。最大の消費国である中国は前月から変更はなかったが、米国は大豆かす需要の減少を要因に前月から68万トン下方修正された。

この結果、期末在庫は、前月より274万トン上方修正の9889万トン（同4.0%増）とされ、2015/16年度以来の低水準となった2020/21年度からの回復が見込まれている。

表 15 主要国の大豆需給見通し（2021年9月10日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

国名	2019/20年度	2020/21年度 (推計値)	2021/22年度		
			(8月予測)	(9月予測)	前年度比 (増減率)
米国					
期首在庫	24.74	14.28	4.34	4.76	▲66.7%
生産量	96.67	112.55	118.08	119.04	5.8%
輸入量	0.42	0.54	0.95	0.68	25.9%
消費量	58.91	58.24	60.01	59.33	1.9%
輸出量	45.70	61.51	55.93	56.88	▲7.5%
期末在庫	14.28	4.76	4.21	5.04	5.9%
ブラジル					
期首在庫	32.47	20.00	26.1	26.60	33.0%
生産量	128.50	137.00	144.00	144.00	5.1%
輸入量	0.55	1.00	0.65	0.65	▲35.0%
消費量	46.74	46.75	47.70	47.70	2.0%
輸出量	92.14	82.00	93.00	93.00	13.4%
期末在庫	20.00	26.60	27.40	27.90	4.9%
アルゼンチン					
期首在庫	28.89	26.70	25.30	24.60	▲7.9%
生産量	48.80	46.00	52.00	52.00	13.0%
輸入量	4.88	5.10	4.70	4.70	▲7.8%
消費量	38.77	40.80	43.00	43.00	5.4%
輸出量	10.00	5.20	6.35	6.35	22.1%
期末在庫	26.70	24.60	25.30	24.60	0.0%
中国					
期首在庫	19.46	26.80	30.80	32.80	22.4%
生産量	18.10	19.60	19.00	19.00	▲3.1%
輸入量	98.53	99.00	101.00	101.00	2.0%
消費量	91.50	94.00	98.00	98.00	4.3%
輸出量	0.09	0.08	0.10	0.10	25.0%
期末在庫	26.80	32.80	33.00	35.00	6.7%
世界計					
期首在庫	114.71	95.90	92.82	95.08	▲0.9%
生産量	339.73	363.27	383.63	384.42	5.8%
輸入量	164.97	166.71	170.61	170.94	2.5%
消費量	312.43	317.99	329.57	329.35	3.6%
輸出量	165.06	165.74	172.33	173.17	4.5%
期末在庫	95.90	95.08	96.15	98.89	4.0%

資料：USDA

注1：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月/ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌9月。

注2：消費量は搾油仕向量である。

（調査情報部 横田 徹）

## 米 国

# 2021/22年度の米国トウモロコシ期末在庫率、9%台の見込み

USDA/WAOBは2021年9月10日、2021/22年度（9月～翌8月）の米国の主要農作物需給予測値を更新した。このうち、同国のトウモロコシ需給見通しは次の通りである（表16）。

表 16 米国のトウモロコシの需給見通し（2021年9月10日米国農務省公表）

区分	－単位－	2019/20年度	2020/21年度 (推計値)	2021/22年度			
				(8月予測)	(9月予測)	参考(換算値)	前年度比 (増減率)
作付面積	(百万エーカー)	89.7	90.8	92.7	93.3	37.8 (百万ヘクタール)	2.8%
収穫面積	(百万エーカー)	81.3	82.5	84.5	85.1	34.4 (百万ヘクタール)	3.2%
単収	(ブッシェル/エーカー)	167.5	172.0	174.6	176.3	11.1 (トン/ヘクタール)	2.5%
生産量	(百万ブッシェル)	13,620	14,182	14,750	14,996	380.91 (百万トン)	5.7%
輸入量	(百万ブッシェル)	42	25	25	25	0.64 (百万トン)	0.0%
期首在庫	(百万ブッシェル)	2,221	1,919	1,117	1,187	30.15 (百万トン)	▲ 38.1%
総供給量	(百万ブッシェル)	15,883	16,127	15,892	16,208	411.70 (百万トン)	0.5%
国内消費量	(百万ブッシェル)	12,186	12,195	12,250	12,325	313.07 (百万トン)	1.1%
飼料など向け	(百万ブッシェル)	5,900	5,725	5,625	5,700	144.79 (百万トン)	▲ 0.4%
食品・種子・その他工業向け	(百万ブッシェル)	6,286	6,470	6,625	6,625	168.28 (百万トン)	2.4%
うちエタノール向け	(百万ブッシェル)	4,857	5,035	5,200	5,200	132.09 (百万トン)	3.3%
輸出量	(百万ブッシェル)	1,777	2,745	2,400	2,475	62.87 (百万トン)	▲ 9.8%
総消費量	(百万ブッシェル)	13,963	14,940	14,650	14,800	375.93 (百万トン)	▲ 0.9%
期末在庫	(百万ブッシェル)	1,919	1,187	1,242	1,408	35.76 (百万トン)	18.6%
期末在庫率	(%)	13.7	7.9	8.5	9.5		1.6ポイント増
生産者平均販売価格	(米ドル/ブッシェル)	3.56	4.45	5.75	5.45	24.2 (円/kg)	22.5%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：年度は各年9月～翌8月。

注2：1エーカーは約0.4047ヘクタール。

生産量は、作付面積および単収がともにわずかに上方修正されたことから、149億9600万ブッシェル（3億8091万トン<sup>(注1)</sup>）、前年度比5.7%増、前月比1.7%増）とわずかに上方修正された。前年度からやや増加する見込みであり、これまでの統計で最も生産量の多かった2016/17年度の151億4800万ブッシェル（3億8477万トン）に近い水準となっている。

消費量は、増産と生産者平均販売価格の下落予測を受けて、飼料など向けが前月から7500万ブッシェル上方修正されたため、全体では123億2500万ブッシェル（3億1307万トン、同1.1%増、同0.6%増）とわ

ずかに上方修正された。

輸出量は、増産を受けて前月から7500万ブッシェル上方修正されたものの、24億7500万ブッシェル（6287万トン、同9.8%減、同3.1%増）と依然として記録的な輸出货量となった前年度からかなりの程度の減少が見込まれている。

期末在庫は、総供給量の増加幅が総消費量の増加幅を大きく超えると予測されたことを受けて、14億800万ブッシェル（3576万トン、同18.6%増、同13.4%増）と前月からかなり大きく上方修正された。その結果、期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）は9.5%（同1.6ポイント増、同1.0ポイント

増)と前月の8%台の予測から回復し、改めて9%台となった。

また、生産者平均販売価格はやや下方修正され、1ブッシェル当たり5.45米ドル(616円。1キログラム当たり24.3円：1米ドル=113円<sup>(注2)</sup>)と見込まれている。

(注1) 1ブッシェルを約25.401キログラムとして農畜産業振興機構が換算。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2021年9月末日TTS相場。

(調査情報部 荒川 侑子)

## ブラジル

### 2020/21年度トウモロコシ生産量、2017/18年度以来の低水準となる見込み

ブラジル国家食糧供給公社(CONAB)は9月9日、2020/21年度第12回目となる主要穀物の生産状況等調査結果を公表した(表17、図24、25)。この調査は、春まきの夏作物(大豆、第1期作トウモロコシなど)や秋まきの冬作物(第2期作・第3期作トウモロコシ、小麦、大麦、ライ麦など)の生産予測値を毎月公表するものである。

(注) 今回の発表では、2020/21年度のブラジルの大豆需給動向に関するデータは掲載されていない。

#### トウモロコシ生産量、5カ月連続の下方修正で前年度から大幅な減少

2020/21年度(第1~第3期作)のトウモロコシ生産量は、前回公表から90万1100トン減と5カ月連続で下方修正(4月予測値から合計で2321万6600トン減少)され、前年度比16.4%減の8574万9000トンと前年度を大幅に下回り、2017/18年度以来の低水準になると見込まれている。国内外からの強い需要と堅調な市場価格を背景に全体の作付面積は同7.2%増とかなりの程度上回ったものの、第2、第3期作を中心に不規則な天候の影響で単収が同22.1%減の1ヘクタール当たり4.3トンと大幅に減少したためである。

生産量全体の約3割を占める第1期作は6月に収穫が終了しており、生産量は同3.7%減の2474万4200トンと前年度をやや下回ると見込まれている。

約7割を占める第2期作は、6月以降収穫が行われ最終段階を迎えている。生産量は、前回に続き下方修正され、同20.8%減の5947万1500トンと前年度を大幅に下回ると見込まれている。これは、作付面積が同8.6%増と前年度をかなりの程度上回ったものの、主要生産地での生育期の干ばつによる降水量不足、中南部での霜や低温などの影響により単収が同27.0%減の1ヘクタール当たり4.0トンと大幅に下回ったためである。地域別では、南東部のミナスジェライス州(同63.9%減)、サンパウロ州(同38.8%減)や南部のパラナ州(同43.1%減)で生産量の落ち込みが大きい。なお、最も生産への影響を受けた地域の生産者は当初の売買契約の履行が困難となり、こうした地域では契約の見直しに向けた再交渉が行われているとされている。

また、生産量全体の2%程度を占める第3期作は、主要生産地の北東部で生育段階にある。生産量は、今回4カ月ぶりに上方修正されたものの、同16.8%減の153万3300ト



ンと前年度を大幅に下回ると見込まれている。作付面積は、生産コストの大幅な上昇があるものの堅調な市場価格を背景として同9.2%増と前年度を上回った。しかしながら、主要生産地である北東部のセルジッペ州では土壌中の水分不足、バイーア州では5月の干ばつなどの影響により、いずれも単収が前年度から3割程度下回るなど全体でも同20.7%減の1ヘクタール当たり2.6トンと前年度を大幅に下回っている。

## 大豆生産量は前年度に続き過去最大の見込み

2020/21年度の大豆生産はすでに収穫を終えているが、生産量は前回より6万6000トン増とわずかに上方修正され、前年度比8.9%増の1億3591万2300トンと前年度の記録を更新し過去最大になると見込まれている。これは、米ドルに対するレアル安や国際価格の上昇を背景に生産者の増産意欲が強く作付面積が増加(同4.3%増)するとともに、収穫期の悪天候により品質への影響があったものの単収も同4.4%増の1ヘクタール当たり3.5トンと前年度の実績を上回ったためである。

表 17 2020/21年度の主要穀物等の生産予測

	作付面積(千ha)				単収(トン/ha)				生産量(千トン)			
	2019/20	2020/21			2019/20	2020/21			2019/20	2020/21		
		(8月予測)	(9月予測)	前年度比(増減率)		(8月予測)	(9月予測)	前年度比(増減率)		(8月予測)	(9月予測)	前年度比(増減率)
穀物合計	65,924.4	68,869.7	68,934.0	4.6%	3.9	3.7	3.7	▲6.1%	257,015.9	253,984.0	252,311.4	▲1.8%
トウモロコシ	18,527.3	19,823.9	19,867.7	7.2%	5.5	4.4	4.3	▲22.1%	102,586.4	86,650.1	85,749.0	▲16.4%
第1期作	4,235.8	4,370.5	4,347.4	2.6%	6.1	5.7	5.7	▲6.2%	25,689.6	24,898.2	24,744.2	▲3.7%
第2期作	13,755.9	14,872.3	14,935.5	8.6%	5.5	4.1	4.0	▲27.0%	75,053.2	60,322.0	59,471.5	▲20.8%
第3期作	535.6	581.1	584.8	9.2%	3.3	2.5	2.6	▲20.7%	1,843.6	1,430.1	1,533.3	▲16.8%
大豆	36,949.7	38,529.0	38,532.1	4.3%	3.4	3.5	3.5	4.4%	124,844.8	135,978.3	135,912.3	8.9%

資料：ブラジル国家食糧供給公社（CONAB）

注1：2021年9月9日公表データ。

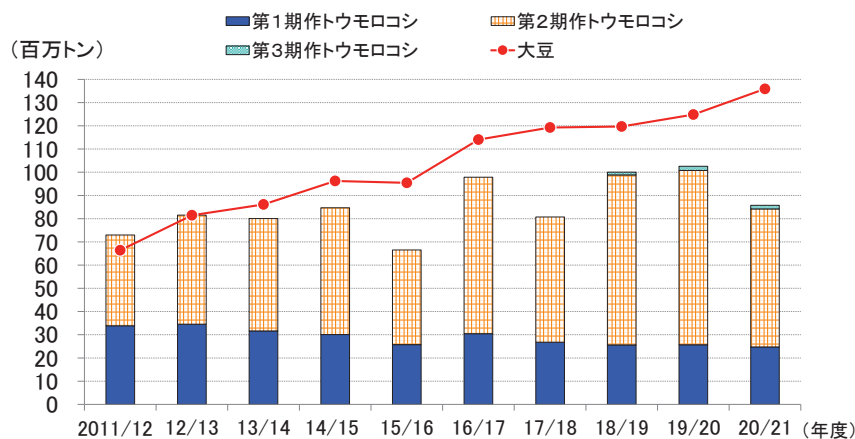
注2：第1作トウモロコシは、例年、9月ごろから南部より順次播種され、翌5月ごろまでに収穫をほぼ終える。

注3：第2作トウモロコシは、主に中西部と南部パラナ州で1～3月にかけて播種が行われ、6～9月に収穫される。

注4：第3作トウモロコシは、主に北部と北東部で5～6月にかけて播種が行われ、10～11月ごろに収穫される。

注5：大豆は、10月ごろから順次播種され、翌5月ごろまでに収穫をほぼ終える。

図 24 トウモロコシと大豆の生産量の推移

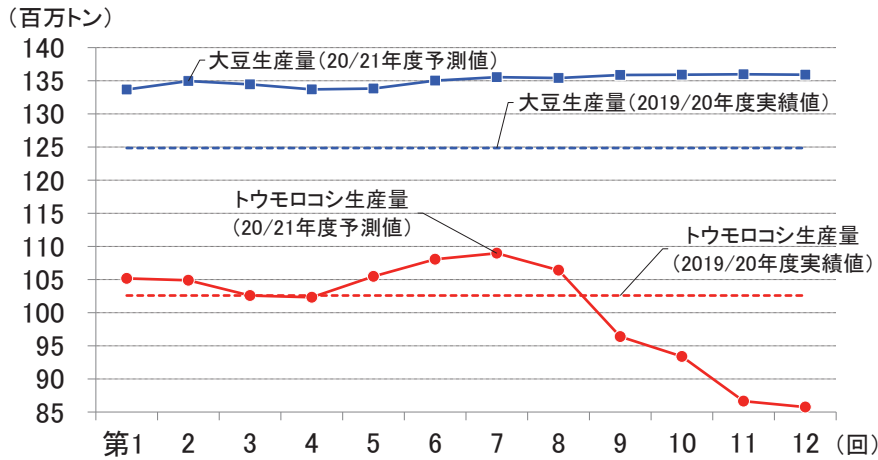


資料：CONAB

注1：2021年9月9日公表データ。

注2：2020/21年度は予測値。

図 25 2020/21年度の生産予測値の推移



資料：CONAB

注：生産予測値の第1回目は10月公表、以降毎月更新。

(参考) ブラジルのトウモロコシ需給動向

(単位：千トン)

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21		
				(8月予測)	(9月予測)	増減率(%)
期首在庫量	15,876.2	14,582.1	10,189.4	10,602.4	10,602.4	4.1
生産量	80,709.5	100,042.7	102,515.0	86,650.1	85,749.0	▲16.4
輸入量	900.7	1,596.4	1,453.4	2,300.0	2,300.0	58.2
供給量	99,203.1	116,221.2	114,157.8	99,552.5	98,651.4	▲13.6
消費量	59,162.0	64,957.8	68,662.5	70,910.0	70,856.0	3.2
輸出量	23,742.2	41,074.0	34,892.9	23,500.0	22,000.0	▲36.9
期末在庫量	14,582.1	10,189.4	10,602.4	5,142.5	5,795.4	▲45.3

資料：CONAB

注：2021年9月9日公表データ。

2021/22年度のトウモロコシ、大豆生産量、いずれも過去最大を予測

CONABは8月26日、第1回目となる2021/22年度の主要穀物の市場予測を公表した。これによると、トウモロコシの生産量は、前年度比33.8%増の1億1590万トンと過去最大と見込まれている。作付面積は、前年度の生産減に伴う供給量の減少やトウモロコシ価格の高騰のため生産者の作付け意欲が強く、同3.9%増の2060万ヘクタールとされた。また、単収も前年度の落ち込みから大きく回復(同28.8%増)するとされている。

なお、作付けは、第1期作においては大豆と競合することから、第2期作を中心に増加するとされている。

また、大豆の生産量は、同3.6%増の1億4130万トンと前年度に続く記録の更新が見込まれている。世界的な消費量の増加が見込まれるとともに国際価格が非常に高い水準であることから生産者の作付け意欲が強く、作付面積は同3.6%増の3990万ヘクタールになるとされている。

(調査情報部 井田 俊二)

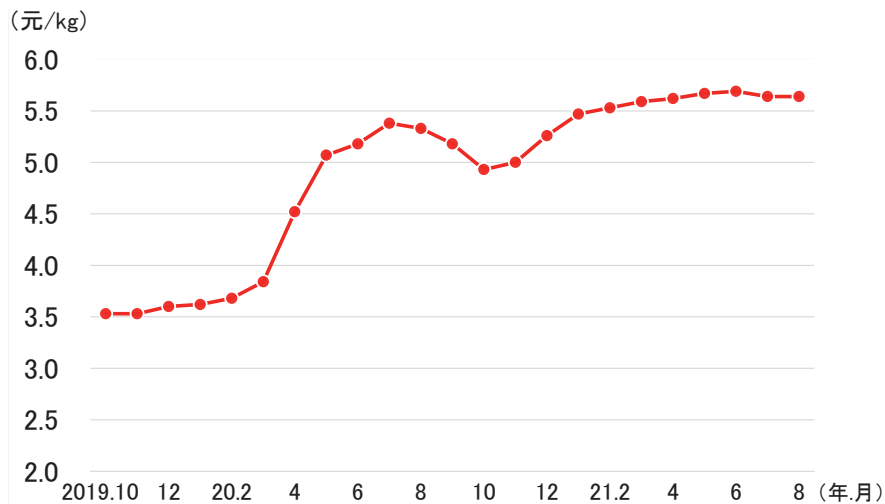
## 中国

# 中国、2021/22年度の大豆輸入量は前月公表と同じく1億トン超と予測

中国農業農村部は9月10日、「2021年9月中国農産物需給状況分析」を公表した。この中で、大豆については具体的数値が示されなかったが、2021/22年度(10月~翌9月)の生産、輸入、消費、価格に関し、いずれも予測に変更はなかったとしている。ただし、大豆の収穫が始まる中で市場への供給が徐々に

開始されているが、大豆作付面積の減少や東北地方での生産減の見込みを受けて、国内の大豆価格は引き続き高止まり傾向で推移するとしている。21年8月の国産大豆販売価格(国有企業)は、1キログラム当たり5.64元(99円：1元=17.6円<sup>(注)</sup>)と前年同月比5.8%高となっている(図26)。

図 26 国産大豆販売価格の推移



資料：中国農業農村部

中国政府系機関の国家糧油情報センターは9月6日、「油脂市場の需給状況に関する月報」を公表したが、前月公表からの変更はなかった。公表された予測値を見ると、2021/22年度の中国の大豆供給量は1億2040万トン、うち1840万トンが国産大豆、1億200万トンが輸入大豆であるとした。また、消費量(搾油仕向け)は1億150万トン(前年度比300万トン増)、うち160万トンが国

産大豆、9990万トンが輸入大豆であるとした。そのほか食用等向けとして1738万トンの消費を見込んでいる。輸入量は引き続き増加傾向を示しており、世界の大豆需給に与える影響が高まっている。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の月末TTS相場。

(調査情報部 横田 徹)